

平成30年度 学校評価報告書

取り組みの現状と今後に向けて

① 組織的な学校運営

- ・教職員アンケートでは組織的な分掌運営に対する肯定的回答が85%であった。100%となるように各人が組織の一員であるという意識を高め、ホウレンソウを大切にしていって組織が機能していく体制づくりを進めていく必要がある。
- ・教職員アンケートでは、いじめのない学校づくりに対する肯定的な回答が100%で、組織的な早期対応に努めている。また、年2回のQU分析を行い、学年ごとに追跡調査を行ったり、気になる生徒に関して面談などを通して状況把握に努めたりしている。ただ、保護者アンケートでは否定的回答も2%あり、十分理解されていない面もある。今後も情報の共有に努め些細な変化も見逃さない体制づくりを進める。
- ・行事ごとの総括を次へ反映させようとPDCAサイクルの意識が高まっている。次年度へ向け教育効果の高まる教育活動の実践に努められるよう準備していく。

② 確かな学力の向上

- ・教員間の授業交流や月ごとのテーマ設定を行い、スモールステップでPDCAサイクルを回しながら授業改善への意識を教員全員で持つことができた。また、それを明示し生徒にも呼びかけていくことができた。ただ、生徒の行動の大きな変化にまでは至っておらず効果的な具体策をさらに考えていく必要がある。
- ・「総合的な学習の時間に学び合いを通して、自分と違う考えが分かり新たな考えを持つことができた」生徒がどの学年も90%を超え後半に向上が見られた。生徒の課題発見を促し、学習意欲の向上に繋げられるよう取組のさらなる充実を図る。
- ・自分で進んで計画を立てて家庭学習をできていると実感している生徒が少ないので、『さなえ』を活用したり家庭学習の交流をしたりしながら家庭学習の習慣化と内容の充実を図り、生徒が計画的な学習を進められるようにしていきたい。

③ 豊かな心の育成

- ・生徒指導の3機能を意識して教職員は学校行事や学級活動等に取り組んできたが、生徒アンケートの「自分にはよいところがある」の肯定的回答は74%で中間評価に比べてやや低下し(4%減)、依然自尊感情が低いことがわかる。役割を与え実行させ、できていることに目を向け認め励ます指導をしたり、生徒同士が認め合える場を設定したりして、生徒が達成感・成就感を持てるようにしていく。
- ・教員のローテーション授業が定着し「考え議論する道徳」の授業実践に努めてきたこともあり、生徒アンケートの「道徳の時間が好きだ」の肯定的回答が81%であった。また、「自分の考えをもつことができた」「考えを深めることができた」「新たな学びを得ることができた」の肯定的回答も90%以上と高かった。しかし、積極的に挙手をして発言することが十分ではないので、発表の仕方を工夫したり、全教育活動を通して考えを進んで発表できるようにしたりしていく必要がある。

④ 健康な心身づくりの推進

- ・部活に関する生徒アンケートで肯定的回答が94%で、また、保護者、教職員アンケー

トの肯定的な回答が 92%と 95%である。今後も部活動顧問会を定期的に行い共通確認した上で指導していくとともに、顧問と学級担任間の連絡も継続して密にしていく。

- ・教育相談に関しては、「生徒が先生は困ったことの相談にのってくれると感じている。」というアンケートの肯定的な回答が 91%である。保護者アンケートでも肯定的回答が 98%で良好な結果であった。今後も生徒理解と親身な対応に努め、相談活動を充実させていくとともに、全教職員がすべての教育活動の中で生徒の小さな変容も見逃さないように生徒の動向に気をつけ、早期発見、早期対応し、随時情報を共有していく。

⑤ 家庭・地域との連携

- ・アンケートにより、保護者が、学校は行事予定や生徒の様子を、各種お便りや Web・メールなどでよく知らせていると感じている。今後も時機を逃さず情報発信していく体制を整えていく。
- ・中間評価と比べ最終評価では教職員の肯定的意見が 80%から 90%へと向上した。今後も家庭や地域との連携はもちろん、町教育委員会や、3 小学校との連携・協働をより推進し「社会に開かれた教育課程」を目指していく。

平成 31 年 2 月 20 日（水）学校関係者評価委員会での評価委員の方々からのご意見

- 子供たちが計画的に学習できないのは、勉強の必要性、必然性を感じていないからではないか。やらされている感ではなく、自ら必要を感じて学習意欲を持てるようになる必要がある。
- 情報発信・メール配信は良い状況にある。保護者アンケートで「大いにあてはまる」が減少したのは親のほしい情報と違うのかもしれない。アンケートにコメントを書けるようにするとよい。
- 中間評価で課題となっていた項目の数値に向上が見られたのはよかった。
- 時間削減と業務の効率化を考えると評価項目をさらに絞り、半分くらいにしてはどうか。そこで確保した時間を面談等子供と関わる時間に割いていくと良いのではないか。